

Abstract

AROMA RESEARCH No.56(Vol.14 No.4)

沖縄在来柑橘カーブチー果皮の精油成分分析

小林義典, 竹元裕明, 府子琪, 清水絵美子, 金城幸隆

<要旨>

カーブチー (*Citrus keraji* var. *kabuchii* hort.ex Tanaka、ミカン科) は、沖縄在来の固有カンキツの一つである。その栽培は沖縄本島中部地域で始まり、次第に北上、南下し大宜味村や名護市、本部町などに広がったと言われ、現在は本部町の伊豆味地域が県内第一の主産地である。大半は生食用として地元での消費、贈答用に使われている。果皮が厚く、爽やかな香気を有するのが特徴であるが、精油成分に関する報告は少なく、生理活性に関する研究もほとんどない。本研究では生理活性の評価に先立ち、異なる果樹園で得られたカーブチー精油の化学成分を精査し、品質管理の指標を得ることを目的とした。

<キーワード>

カーブチー、カンキツ、ミカン科、精油、沖縄